資料目次

資料１　宇部市保健福祉職員人材育成プログラム
資料２　ふれあい遊びリーフレット　赤ちゃんサロン用
資料３　ふれあい遊びリーフレット　妊婦教室用
資料４　参加者アンケート　赤ちゃんサロン用
資料５　参加者アンケート　妊婦教室用
資料６　平成 26 年度日本公衆衛生看護学会学術集会　抄録
資料７　平成 26 年度日本公衆衛生看護学会学術集会　口演資料
資料８　平成 27 年度日本公衆衛生看護学会学術集会　抄録
資料９　平成 27 年度日本公衆衛生看護学会学術集会　示説資料

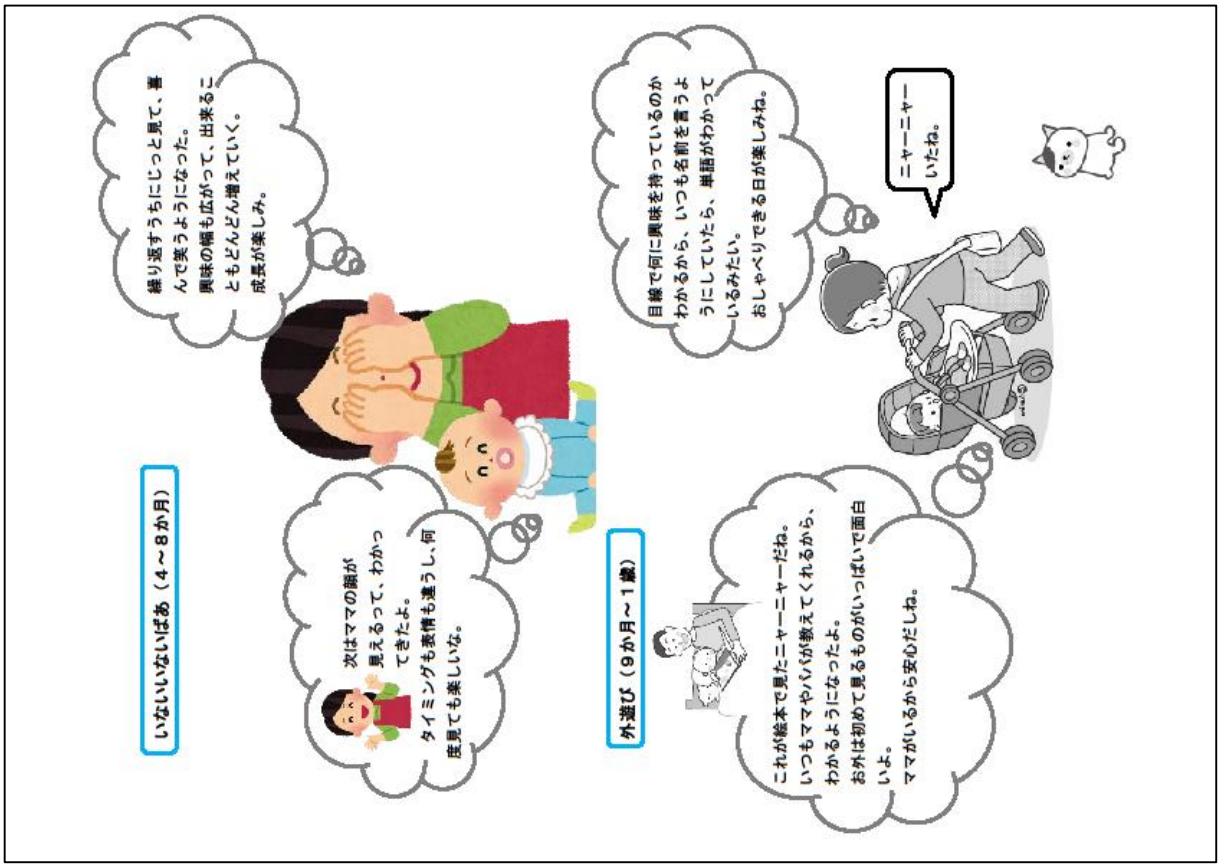
資料１　宇部市保健福祉職員人材育成プログラム

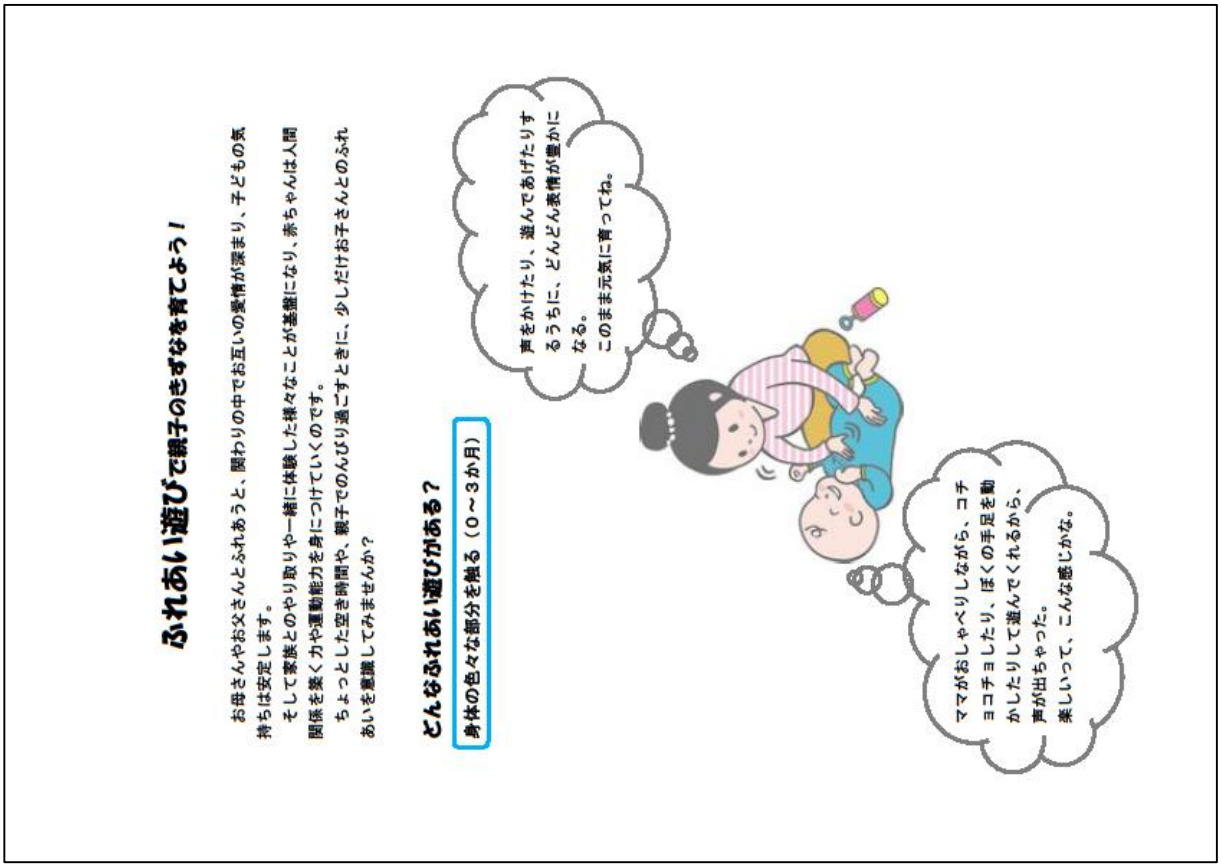
資料３　　宇部市健康福祉部保健福祉職員　人材育成プログラム

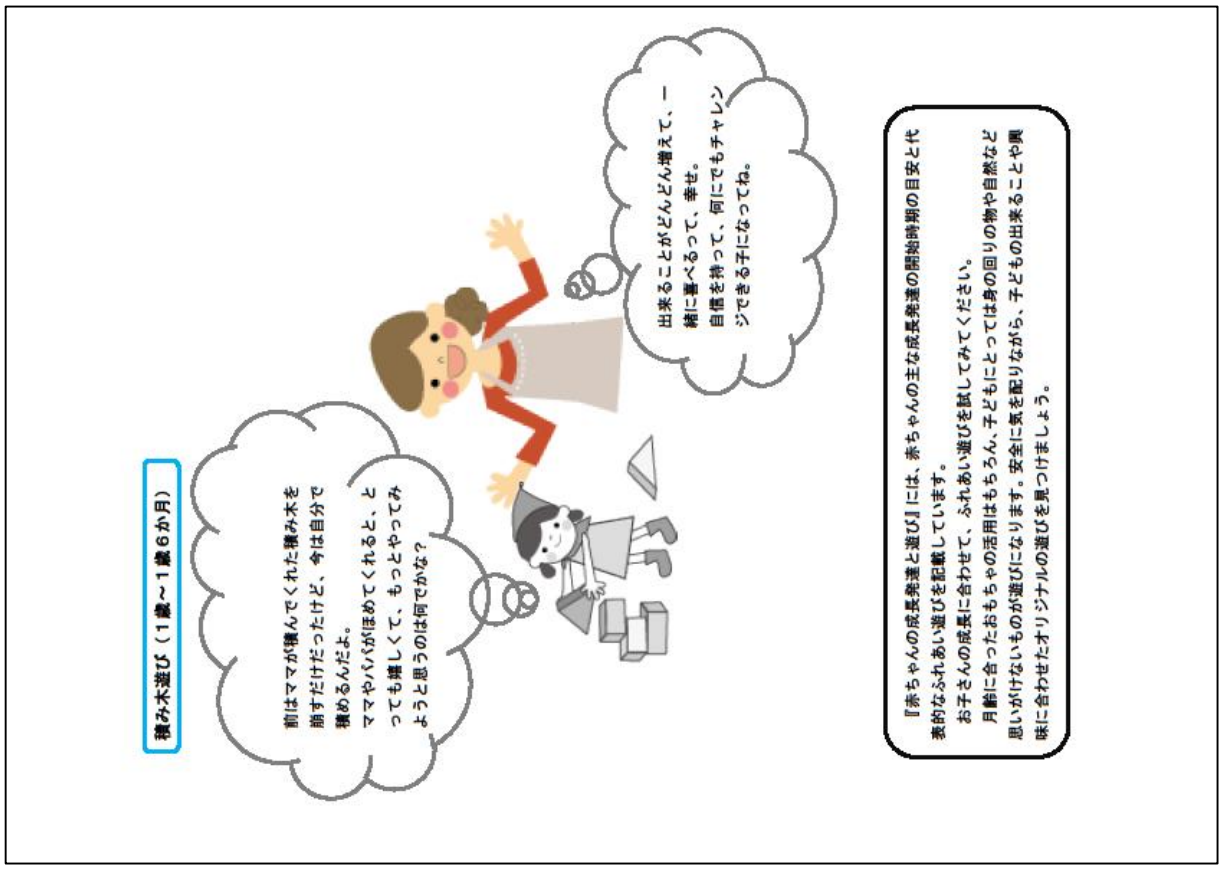
平成25年11月作成

時期		職位 年数目安	人材育成の役割	育成するコア能力	プログラムごとの達成目標					研修体系		
					対人支援	地域マネジメント	健康危機管理	組織管理		職場内・横断的職場内研修	職場外研修	
								職場管理	人材育成		専門職機能別研修	行政職研修
新任期	①見守期	1,2年目	指導者の指導と見守りが必要	○職場適応と専門職としての自己確信	○担当する分野の個人・家族への対応（対象別）ができる	○個人・家族の背景としての地域を理解できる ○社会資源・関係機関の業務内容を把握し、資源としての地域を理解できる	○健康危機管理に関するマニュアルを理解し、指示の下に行動できる	○専門職としての使命を理解できる		○職場単位 事例検討会 ○合同研修 研究発表会 地域課題講演会	新任地域保健関係職員研修	新規採用職員研修 （前期・中期・後期）
	②基礎自立期	3～5年目	見守期の相談役	○個人・家族への責任ある対応の実施 ○基本的な事例、事業の運営を自立して遂行	○担当以外の分野の基本的な事例の判断・対応ができる	○担当する分野（地域）のアセスメント（地域診断）ができる	○予測下での自己の役割を理解し、行動できる ○倫理的配慮のある対応ができる	○メンバーシップを発揮できる	○新任期への教育的配慮ができる		新任地域保健関係職員研修	
中堅期	①独り立ち期	6年目～	新任期の指導者	○集団・地域を視野に入れた組織的対応の実施	○複雑困難な事例への対応ができる	○市全体のアセスメントができる ○市全体の地域診断に基づいて、対応策としての事業起案ができる	○調査実施、原因分析、資料化ができる ○危機管理の地域診断ができる	○課内での連携ができる	○日常的な教育対応ができる		地域保健課題評価別研修 日本公衆衛生学会等 国立保健医療科学院	中堅職員一部研修 中堅職員二部研修
	②主任前期	主任1～9年目	独り立ち期のサポート	○市民や関係団体との協働・育成	○事例のケアチームを編成し、対応できる	○担当する分野の施策体系を理解できる ○地域組織の育成ができる	○関係機関との連絡・調整ができる	○他課との組織連携ができる			中堅前期地域保健関係職員研修 地域づくり住民リーダー研修	新任主任職研修
	③主任後期	主任10年目以降 主務主任	指導監督者の補佐	○リーダーシップを発揮した事業の推進・評価	○事例のケアチームの中で、リーダーとして対応できる	○担当する分野の事業評価ができる	○危機のフェーズ別事業の企画立案・評価ができる	○リーダーシップを発揮できる	○組織的な教育対応（指導監督者の補佐）ができる		中堅後期地域保健関係職員研修 健康危機管理研修	主任職研修
管理期	①中間管理者	係長 主査	指導監督者	○スーパーバイズ ○担当する分野における施策の推進・評価	○事例のスーパーバイズができる	○担当する分野のアセスメントを、事業計画・評価に反映できる ○施策評価ができる	○健康危機発生時に組織内の有効な指示系統を把握し、情報の把握と報告を行い、部下に適切な指示が出せる ○中長期的視野を持った危機管理計画が作成できる	○実務の組織的調整ができる ○係の業務管理ができる	○係内人事管理ができる		管理前期地域保健関係職員研修 スーパーバイズ研修	新任係長職研修 （前期・中期・後期） 係長職（3年目）研修
	②統括管理者	課長補佐 課長 部次長	中間管理者の指導	○自治体における対応策のシステム化	○総合的なスーパーバイズができる	○地域計画の策定ができる ○政策評価ができる ○資源開発やシステム開発ができる	○健康危機発生時に関係機関との連携をとり情報を適切に処理し、的確かつ迅速な指示が出せる ○上部組織への提言（発信）ができる ○体制、システムづくりができる	○組織の代表としての交渉と調整ができる ○他の部署との交渉と調整ができる	○組織の人事管理ができる ○適材適所の人事配置と人事異動への提言ができる		管理後期地域保健関係職員研修	新任課長・課長補佐職研修 （前期・後期） 課長補佐職研修（3年目） 実績評価研修

資料 2　　ふれあい遊びリーフレット　赤ちゃんサロン用







赤ちゃんの成長発達とふれあい遊び

月齢		0か月～3か月				4か月～8か月					9か月～1歳				1歳～1歳6か月					
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1歳	1歳1か月	1歳2か月	1歳3か月	1歳4か月	1歳5か月	1歳6か月
主な成長発達の開始時期	運動				首がすわる					つかまり立ち										
						寝返りをうつ			はいはい			つたい歩き			ひとり歩き					
									ひとりすわり											
	コミュニケーション	耳・目は未熟ながらも反応																		
			あやすと笑う					人見知り			バイバイをする									
					声のする方を向く						大人のまねをする									
				目で物を追う								動く物に興味を示す								
													道具の使い方がわかる							
															簡単な指示が理解できる					
	言葉			「アーウー」など喃語がでる																
							赤ちゃんことばを話す													
													意味のある言葉を言う							
ふれあい遊びの例		目を見ながら、たくさん話しかける				いないいないばあなどの繰り返しの遊び					積極的な外遊びを始める				親が体育座りをし、膝の上から赤ちゃんをすべらせる					
		身体の色々な部分をさわる				赤ちゃんをおなかの上にのせ、左右にゆする					動きのマネをさせる				床の上に並んで一緒に転がる					
		腕・足を曲げたり伸ばしたり				赤ちゃんを支えながら寝たり起こしたり					はいはいで競争				新聞紙を丸めたり破ったりする					
		手遊び歌				おすわりで手を使う遊び					ボールを転がしてキャッチボール				ボールや押し車など運動機能を発達させるおもちゃ					
		絵本の読み聞かせをする				はいはいで動き回れるスペースの確保					積んだ積み木をくずす				ブロック・積み木など指先を使うおもちゃ					
		2か月頃から散歩をする									四つん這いになり、背中に乗せる				ままごと遊び・砂遊び・水遊び					
															言葉と一緒に手足を使う遊び					

＊ 発達には個人差があります。目安としてください。

資料 3　　ふれあい遊びリーフレット　妊婦教室用

ふれあい遊びで親子のきずなを育てよう！

親子でふれあうと、関わりの中でお互いの愛情が深まり、子どもも親も気持ちが安定します。

そして家族とのやり取りや一緒に体験した様々なことが基盤になり、赤ちゃんは人間関係を築く力や運動能力を身につけていくのです。

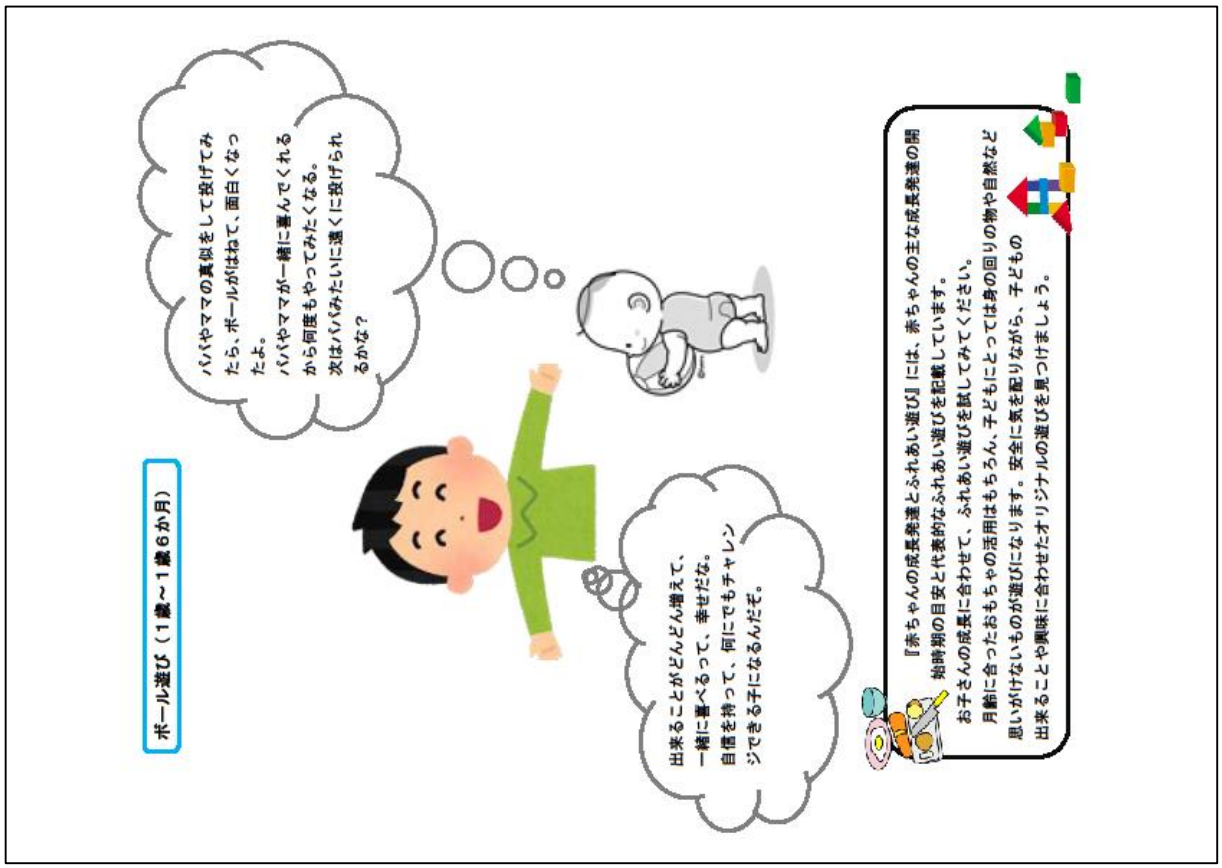
お子さんが生まれたら、ちょっとした空き時間や、親子でのんびり過ごすときに、お子さんとのふれあいを意識してみてください。

どんなふれあい遊びがある？

身体の色々な部分を触る（0～3か月）

いないいないばあ（4～8か月）

外遊び（9か月～1歳）



赤ちゃんの成長発達とふれあい遊び

月齢		0か月～3か月				4か月～8か月					9か月～1歳				1歳～1歳6か月					
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1歳	1歳1か月	1歳2か月	1歳3か月	1歳4か月	1歳5か月	1歳6か月
主な成長発達の開始時期	運動				首がすわる					つかまり立ち										
						寝返りをうつ			はいはい			つたい歩き			ひとり歩き					
									ひとりすわり											
	コミュニケーション	耳・目は未熟ながらも反応																		
			あやすと笑う					人見知り			バイバイをする									
					声のする方を向く						大人のまねをする									
			目で物を追う									動く物に興味を示す								
													道具の使い方がわかる							
														簡単な指示が理解できる						
	言葉			「アーウー」など喃語がでる																
							赤ちゃんことばを話す													
ふれあい遊びの例		目を見ながら、たくさん話しかける				いないいないばあなどの繰り返しの遊び					積極的な外遊びを始める				親が体育座りをし、膝の上から赤ちゃんをすべらせる					
		身体の色々な部分をさわる				赤ちゃんをおなかの上にのせ、左右にゆする					動きのマネをさせる				床の上に並んで一緒に転がる					
		腕・足を曲げたり伸ばしたり				赤ちゃんを支えながら寝たり起こしたり					はいはいで競争				新聞紙を丸めたり破ったりする					
		手遊び歌				おすわりで手を使う遊び					ボールを転がしてキャッチボール				ボールや押し車など運動機能を発達させるおもちゃ					
		絵本の読み聞かせをする				はいはいで動き回れるスペースの確保					積んだ積み木をくずす				ブロック・積み木など指先を使うおもちゃ					
		2か月頃から散歩をする									四つん這いになり、背中に乗せる				ままごと遊び・砂遊び・水遊び					
															言葉と一緒に手足を使う遊び					

＊ 発達には個人差があります。目安としてください。

資料４　参加者アンケート　赤ちゃんサロン用

赤ちゃんサロンアンケート

現在の子どもとのふれあい遊びについて教えてください。　　宇都市

問1 子どものふれあい遊びを意識して行ったことがありますか？

1. はい　⇒主なもの1つ ☑
- ☐ いつも意識している
- ☐ 人に聞いて意識するようになった
- ☐ その他（　　）

2. いいえ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 意識するが、何をしてよいか分からない
- ☐ どんなおもちゃを使ってよいか分からない
- ☐ 実施しても反応がないのでおもしろくない
- ☐ その他（　　）

問2 子どもの成長に応じたふれあい遊びについて理解できましたか？

1. はい⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 以前から知っていた
- ☐ 聞けてよかった
- ☐ 遊びに活かせそう
- ☐ その他（　　）

2. いいえ ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 話が難しかった
- ☐ 具体的なイメージがつかなかった
- ☐ 必要性を感じない
- ☐ その他（　　）

問3 子どもとのふれあい遊びができそうですか？

1. はい ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 以前からしていた
- ☐ これからやってみようと思う
- ☐ 今までよりも時間を増やそうと思う
- ☐ その他（　　）

2. いいえ ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 自信がない
- ☐ スマホアプリ・DVDの方が子どもが好む
- ☐ 時間がない
- ☐ その他（　　）

問4 子どもとのふれあい遊びの話についていつの時期に、どのような方法で聞きたいですか？

時期 ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 妊娠中
- ☐ 出産後1週間
- ☐ 出産後3か月
- ☐ 出産後7か月
- ☐ その他（　　）

方法 ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 冊子・チラシ
- ☐ ホームページ
- ☐ メール
- ☐ 講座・教室
- ☐ その他（　　）

★ お子さんについて　［出生順位］　第　　子　［年齢］　　才　　か月

＊ご協力ありがとうございました。

資料５　参加者アンケート　妊婦教室用

ふれあい遊びに関するアンケート

講話の中の「赤ちゃんの成長発達とふれあい遊び」と体験の中の「ふれあい遊び」のコーナーについてお聞きします。
赤ちゃんとのふれあい遊びについて知っていることを教えてください。

問1 赤ちゃんの成長発達とふれあい遊びが関係しているのをご存じでしたか？

1. はい　⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 家族や友人から聞いて知っていた
- ☐ ネットで見た
- ☐ 育児本で見た
- ☐ その他（　　）

2. いいえ

問2 赤ちゃんの成長に応じたふれあい遊びについて理解できましたか？

1. はい⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 以前から知っていた
- ☐ 聞けてよかった
- ☐ その他（　　）

2. いいえ ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 話が難しかった
- ☐ 具体的なイメージがつかなかった
- ☐ その他（　　）

問3 赤ちゃんとふれあい遊びができそうですか？

1. はい ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 以前からしようと思っていた
- ☐ 話を聞いてしてみたいと思った
- ☐ その他（　　）

2. いいえ ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 自信がない
- ☐ まだイメージがつかず、よくわからない
- ☐ 余裕がなさそう
- ☐ 必要性を感じない
- ☐ その他（　　）

問4 赤ちゃんとのふれあい遊びの話についていつの時期に、どのような方法で知りたいですか？

時期 ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 妊娠中
- ☐ 出産後1週間
- ☐ 出産後1か月
- ☐ 出産後3か月
- ☐ 出産後7か月
- ☐ その他（　　）

方法 ⇒主なもの1つ ☑
- ☐ 冊子・チラシ
- ☐ ホームページ
- ☐ メール
- ☐ 講座・教室
- ☐ その他（　　）

★ 生まれてくるお子さまは何人目ですか。　　＿＿人目

＊ご協力ありがとうございました。

資料 6　　平成 26 年度日本公衆衛生看護学会学術集会　抄録

市民センターに配置された保健師による地域診断に基づくPDCA サイクルの実践モデル―第 1 報―

斎藤美矢子[1)]，佐々木里佳[1)]，加生明美[1)]，竹谷紗織[1)]，竹森彩[1)]，小樋倫子[1)]，守田孝恵[2)]

1）宇部市，2）山口大学大学院

キーワード：地域診断，PDCA サイクル，問題発見

【目的】

本研究は、市民センターに配置された地域・保健福祉支援チームの保健師が問題意識を持って住民ニーズを把握し、地域診断に基づく効果的な保健師活動を行う上で、保健師活動の展開図[1)]活用シート（以下、活用シートと略す）における「問題発見」段階で実践活動上の困難な課題を明らかにすることを目的とした。

【研究方法】

1.研究方法　H26.5月～9月に月1回程度で集まり、グループワークで、以下のとおり検討した。

第1回　地域活動のテーマの設定
第2回　活用シートによる保健師活動の理解
第3回　事例から探る問題発見の展開
第4回　地域の健康課題のとらえ方
第5回　問題発見の課題の集約

市民センターに配置された保健師5名を含む7名の保健師で、活用シートによる保健師活動の記録とグループワークから、「問題発見」段階で実践活動上の困難な点を抽出し、分析した。

2.倫理的配慮　保健師に対し、研究の目的と協力の任意性、匿名性の保持について説明し、研究として取り組み及び公表することの同意を得た。また、研究実施について、庁内の決裁を得た。

【結果】

実践活動（①問題発見②実態把握③地域診断④活動計画⑤実践⑥評価）を活用シートで整理した。第2回で、問題発見が記入できた者が5名、実態把握を記入できた者が4名、地域課題の把握が記入できた者が3名であった。

一方、グループワークでは、活用シートに記入したものの、地域の問題を明確にすることが困難で、多くの時間を費やすこととなった。これらの結果から、「問題発見」における課題を抽出した。

i　個の健康課題は理解できるが、集団の健康課題へ視点を広げることができていなかった。
ii　ほかの地域には見られない特有の課題を見つけないといけないと思っていた。
iii　健康課題が見えず、目の向け方がわからない。
iv　住民100人中10人の困りごとでは健康課題としてあまり重要視していなかった。
v　漠然と訪問活動を行っても、話がまとまらず話題をどこに絞ればよいかわからない。
vi　他職種がいる地域・保健福祉支援チームが地域全体の生活全般の課題把握を求められる中で、健康課題をとらえることが難しい。
vii　保健師1名配置のため日常的にスーパーバイザーがおらず、問題発見をしても的確かどうかを判断することに自信が持てない。

これら7つの保健師の課題は、視点（i～v）と手順（vi、vii）という2つのカテゴリーに分類された。

【考察】

PDCA サイクルの「問題発見」の段階で、保健師の視点と手順の課題が、PDCA サイクルの実践上の課題であることが明確になった。今後、PDCA サイクルの実践モデルの構造として視点と手順を検討していく。

1）文献　守田孝恵編著，展開図でわかる「個」から「地域」へ広げる保健師活動，P14，クオリテイケア，2013

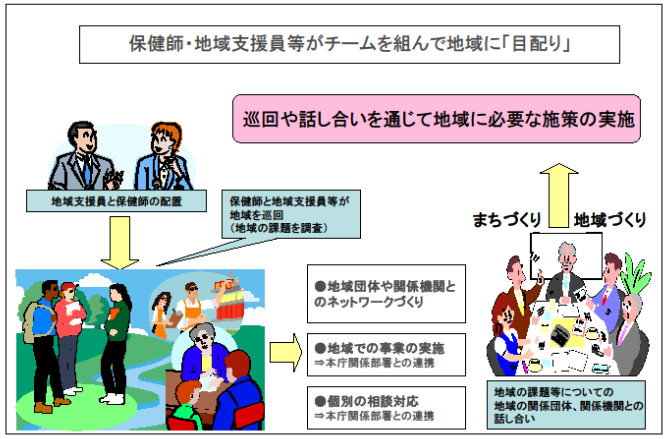
市民センターに配置された保健師による地域診断に基づくPDCAサイクル実践モデル
ー第１報ー

斎藤美矢子　佐々木里佳　加生明美
竹谷紗織　竹森　彩　小樋倫子　守田孝恵

目的

- Ｈ２６年４月から、保健センターに配置されていた保健師のうち、５名が地域・保健福祉支援チームとして市民センターに配置された。
- 保健師が問題意識を持って住民ニーズを把握し、地域診断に基づく効果的な保健師活動を行う上で、保健師活動の展開図活用シートにおける「問題発見」の段階で、実践活動上の困難な課題を明らかにする。

元気・安心・地域づくり事業

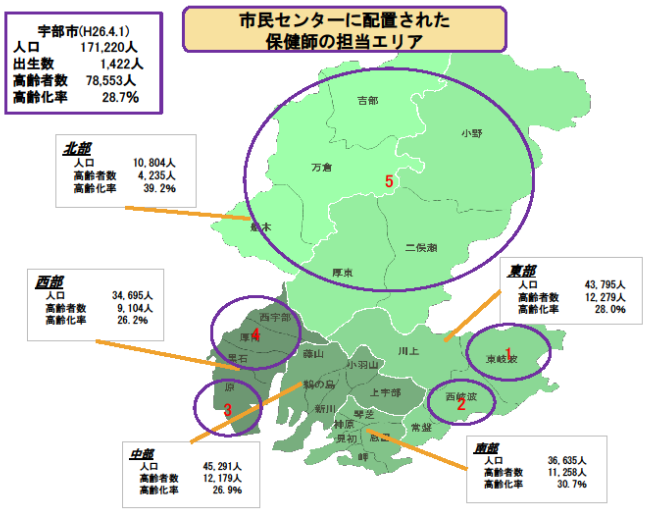


地域・保健福祉支援チーム（中山間地域・保健福祉支援チーム）

◆　チームリーダーの業務内容
1　地域・保健福祉支援チーム（中山間地域・保健福祉支援チーム）の統括に係る業務

◆　地域支援員（中山間地域支援員）の業務内容
1　相談・訪問等による地域支援に係る業務
2　市の施策情報の周知等広報に係る業務
3　地域の関係機関との連絡調整に係る業務
4　自治会・コミュニティ団体の活動支援に係る業務
5　庁内担当課との調整等に係る業務

◆　保健師の業務内容
1　相談・訪問等による保健福祉に係る業務
2　地域保健福祉の推進に係る業務
3　地域の関係機関との連絡調整に係る業務
4　地域市民団体の地域福祉活動の支援に係る業務
5　庁内担当課との調整等に係る業務



保健師の具体的な巡回先

- ２６年４月段階の個別の訪問先
  - 妊婦や赤ちゃんで見守り等が必要な家庭
  - 子どもの健診結果から見守り等が必要な家庭
  - 特定健診やがん検診の結果から保健指導が必要な家庭
  - 高齢者等で支援を必要な家庭を中心として、随時、相談のあった家庭
- 地域関係団体
  - 校区コミュニティ、校区社会福祉協議会、高齢者総合相談センター、介護・医療機関、自主防災会、民生児童委員、福祉委員等

研究方法

Ｈ２６．５月～９月 月１回 グループワーク

【検討内容】

第１回 地域活動のテーマの設定

第２回 活用シートによる保健師活動の理解

第３回 事例から探る問題発見の展開

第４回 地域の健康課題のとらえ方

第５回 問題発見の課題の集約

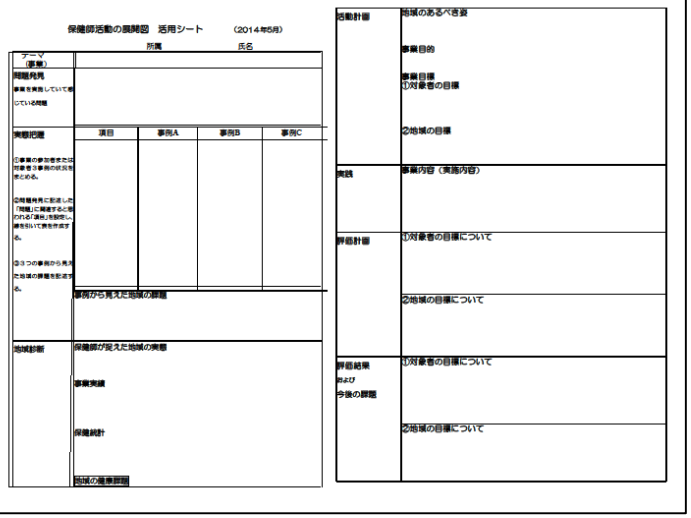
分析方法

●グループワークメンバー

市民センターに配置された保健師５名、

本庁保健師１名、大学教授１名

●活用シートによる保健師活動の記録とグループワークから、「問題発見」段階で実践上困難な点を抽出し、分析した



保健師活動の視覚図　活用シート　（2014年5月）

所属　　氏名

テーマ（事業）					
問題発見 事業を実施していて感じている問題					
実態把握 ①事業の参加者または対象者と事業の成功をとらえる。 ②問題発見に記述した「問題」に関連すると思われる「課題」を設定し、適切において実を作成する。 ③3つの事例から見えた地域の課題を記述する。	項目	事例A	事例B	事例C	
	事例から見えた地域の課題				
地域診断	保健師が捉えた地域の実態 事業実績 保健統計 地域の健康課題				
活動計画	地域のあるべき姿 事業目的 事業目標 ①対象者の目標 ②地域の目標				
実践	事業内容（実施内容）				
評価計画	①対象者の目標について ②地域の目標について				
評価結果および今後の課題	①対象者の目標について ②地域の目標について				

５人の保健師の背景

市民センター配置保健師	保健師経験年数（H26.4.1現在）	受け持ち校区数	地域支援チーム体制
保健師１	７年	１校区	チームリーダー（市民センター長）地域支援員２名
保健師２	１２年	１校区	チームリーダー（市民センター長）地域支援員１名
保健師３	６年	１校区	チームリーダー（市民センター長）地域支援員１名
保健師４	２７年	３校区	チームリーダー（市民センター長）地域支援員２名
保健師５	２７年	６校区	チームリーダー（北部総合支所次長）地域支援員６名

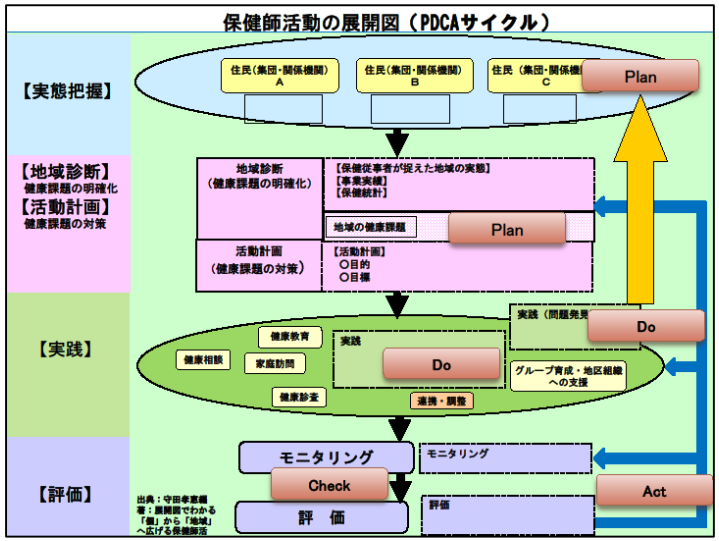
倫理的配慮

- 保健師に対し、研究の目的と協力の任意性、匿名性の保持について説明し、研究として取り組み公表することの同意を得た
- また、研究実施にあたり、庁内の決裁を得た

結果

保健師の実践活動を、6つの流れに沿って、活用シートで整理した

①問題発見
②実態把握
③地域診断
④活動計画
⑤実践
⑥評価



活用シートによる保健師の気づき

PDCAサイクルの進捗を矢印で、

第1回　テーマ設定

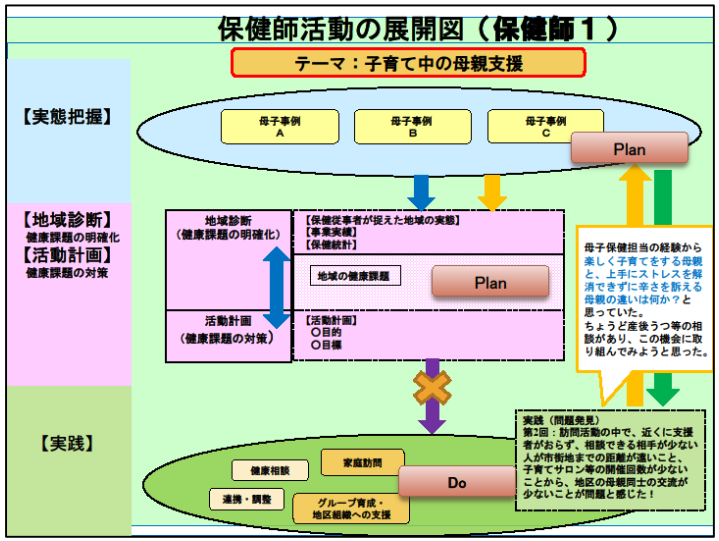
第2回

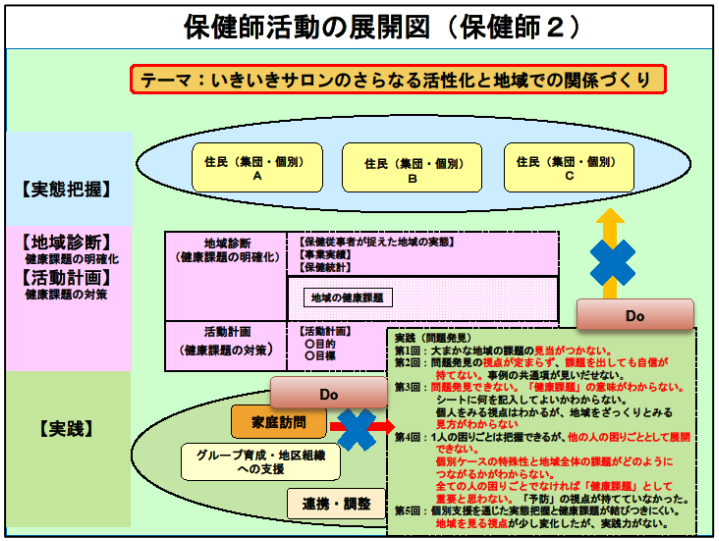
第3回

第4回

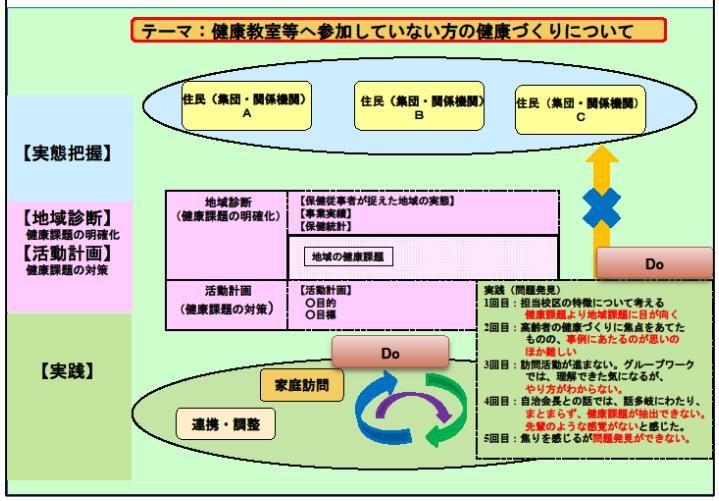
第5回

「問題発見」における気づきの内容を吹き出しで示す

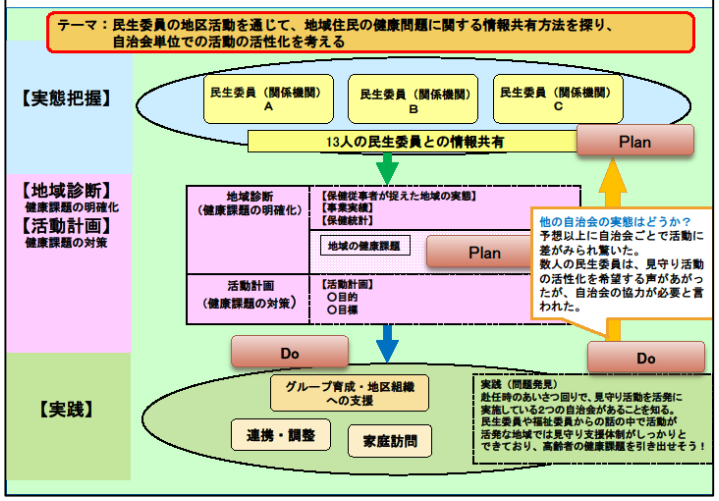




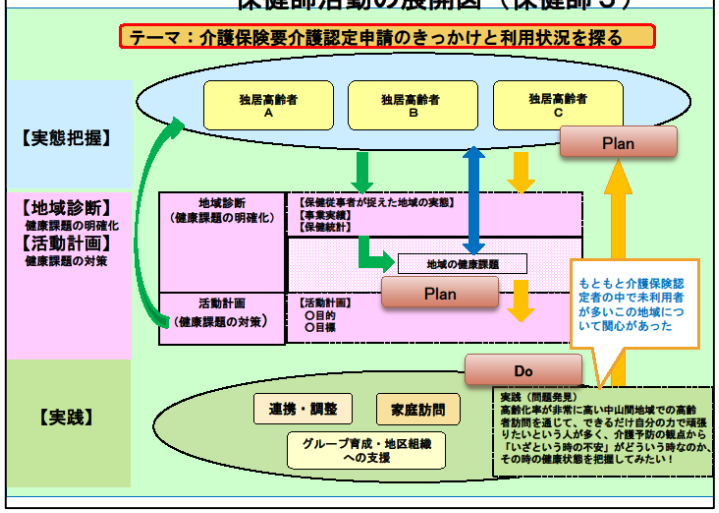
保健師活動の展開図（保健師３）



保健師活動の展開図（保健師４）



保健師活動の展開図（保健師５）



「問題発見」の課題

1　個の課題を集団の健康課題へ視点を広げられなかった
2　他の地域にない特有の課題を見つけなければと思っていた
3　地域支援員（事務職）が住民の生活全体の課題把握を求めている中で、健康課題をとらえることが難しい
4　少人数の課題を健康課題として重要視していなかった
5　対象者の話から、健康問題を引き出す聞き方がわからない

6　健康課題が見えない、目の向け方がわからない
7　問題発見をしても、的確かどうかを判断することに自信がない

７つの課題と２つのカテゴリー

視点

- １０人の困りごと≠健康課題
- 健康課題の捉え方
- 聞き取りの焦点
- 特有の課題
- 個から集団への健康課題の広げ方

手順

- 健康課題への目の向け方
- 問題発見の確認作業

考察

- 日常の業務の中で健康課題の気づきや感覚を持っていることが、PDCAサイクルをスタートさせるポイントとなっている
- PDCAサイクルにおける「問題発見」の段階で保健師活動を阻む問題は、保健師の【視点】と【手順】に分けることができた
- 今後は、PDCAサイクルの実践モデルの構造として、【視点】と【手順】に着目し、検討をしていく必要がある

参考文献

１）守田孝恵編著，
展開図でわかる「個」から「地域」へ広げる保健師活動，P14，クオリティケア，2013

資料 8　　平成 27 年度日本公衆衛生看護学会学術集会　抄録

市民センター配置保健師による地域診断に基づく
ＰＤＣＡサイクル実践モデル（第２報）

佐々木里佳1)，大下昌恵1)，加生明美1)，竹谷紗織1)，竹森彩1)
小樋倫子1)，宮原美起1)，守田孝恵2)

1)宇部市，2)山口大学大学院

【目的】第１報で明確となった PDCA サイクルの「問題発見」段階における７つの課題のうちの、「個の課題から集団の健康課題へ視点を広げられない」「少人数の課題を健康課題として重要視していない」「対象者の話から、健康問題を引き出す聞き方がわからない」「健康課題が見えない、目の向け方がわからない」「問題発見をしても的確かどうかを判断することに自信がない」について、この保健活動の課題を解決するための実践的手法を探る。

【研究方法】①対象：経験年数７年から 13 年の市民センター所属の保健師３名。
②方法：PDCA サイクルにおける気づき（問題発見）を明確化する方法として、１歳６か月児健診の問診とカンファレンスの場面を共有する実践を試み、その事前事後に「問題発見」における理解の変化について評価項目を９項目設定して自己評価により点数化した。また、各項目についてカンファレンスの内容を分析した。

【倫理的配慮】保健師に研究目的と匿名性の保持について説明し、庁内の決裁を得て実施した。

【結果】評価の合計点数が高い項目は、「『あれっ』という気づきを『問題発見』につなげること」と、その問題発見に必要な「市民が生活していく上での『ふつう』」の感覚に関するものだった。低い項目は、「共通項から地域の課題の『見立て』ができる」であったが、カンファレンスを重ねるにつれ点数の伸びが認められた。
　また、１歳６か月児健診の問診とカンファレンスを共有して気づきを明確化する実践では、①ひとりでは確信が持てないため、複数人で経験の場を共有し、その後カンファレンスで意見交換をして気づきを明確にする段階が必要である。②カンファレンスの場は、その気づきが住民の一般的な状況として「ふつう」なのか、保健師の対応が必要なことなのかについて、保健師の判断基準を近づける場にもなる。③気づきにつながるアセスメントのためには、必要な情報を得るためのポイントの見極めが必要であり、「見立てる」「予測する」ことが大切である。④今回行ったカンファレンスは事例検討とは違い、その場を一緒に体験することで共感しやすく視点の広がりを感じやすい、という意見を得た。

【考察】研究結果から、保健活動の課題解決の実践的手法として①業務をひとりで担当させず、複数人で検討する体制とすること。②気づきを次につなげるために、事業後に丁寧なカンファレンスを行って職員間の共感の場を作ること。③個別対応についても内容を共有する場を作り、地域の課題を見つける機会とすること。④「あれっ」という気づきを地域課題として「見立てる」「予測する」ことができるよう、日頃から意識してコミュニケーションをとることが必要である。
　今回得た「問題発見」段階における課題解決の方法は、PDCA サイクルの他の段階でも共通するものと考えられる。今後の地域の課題解決を実践する際も複数人で場を共有し、PDCA を繰り返す経験を積み重ねたい。

市民センター配置保健師による地域診断に基づくＰＤＣＡサイクル実践モデル(第2報)

佐々木里佳[1)]，大下昌恵[1)]，加生明美[1)]，竹谷紗織[1)]，竹森彩[1)]
小樋倫子[1)]，宮原美起[1)]，守田孝恵[2)]　　1）宇部市，2）山口大学大学院

私達、地域・保健福祉支援チームの一員となって気づきました！
保健センターにいる時よりも、自分の担当校区に配置されることで、より地域住民の声を聴くことができることに。
ＰＤＣＡを意識しなくては、と実感しています！

研究目的

●第１報で「問題発見」段階の課題を明確化
視点としての　「個から集団への課題の広げ方」
「10 人の困りごと≠健康課題」
「聞き取りの焦点が絞れない」
手順としての　「課題把握のための動き方」
「問題発見の妥当性の確認作業」
⇒これらを解決する実践的方法を考える！

【地域・保健福祉支援チーム】とは
・保健師と地域支援員で構成
・本庁ではなく、小学校区単位の市民センターに所属し、地域により身近なところで活動
・地域の課題解決を協働により実践
・活動は保健福祉、地域活性化など多岐にわたり展開

研究方法

●対象：経験年数 7～13 年の市民センター所属保健師３名
●方法：事業での場の共有体験をとおして、問題発見の明確化を試みる
・１歳６か月児健診の問診とカンファレンスを先輩保健師と複数人で体験し、気づきを共有する場を持つ
・「問題発見」における理解の変化を事前事後に自己評価
・各項目についてカンファレンスの内容を分析

１歳６か月児健診の問診

１回目	・自分の方法で実施
２回目	・先輩の問診を見学
３回目	・学んだ方法で問診を実施

終了後、独自カンファレンス

個別事例の検討に留まらず、健診の場で感じた「今どきの母親の子供への関わり方で気になること」を共有！

結果

●場の共有を重ねるたびに自己評価を実施し、３人の合計点の変化を見た
（１人１０点満点）

２点	助言があっても理解できない
４点	助言があればできる
６点	助言がなくてもなんとかできる
８点	助言がなくてもできる
10 点	助言なしで十分できる

「あれっ」という気づき、問題発見に関する項目については、事前の自己評価では１点をつけた者もいました。
カンファレンスで気づきを掘り下げていき、明確化する段階を経験し、「地域の課題と捉える」ことを実感しました。

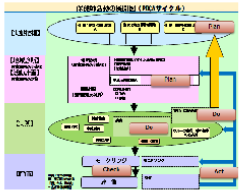
●理解に関する評価項目の自己評価点数の変化（３名の合計）

点数の伸びが大きい項目（事前の理解度が低い項目）
＝「あれっ」という気づきを問題発見につなげる能力に関する項目

項　目	事前	1回目	2回目	3回目
「あれっ」という気づきを「問題発見」につなげることができる	6	7	9	13
自分から「問題発見」となるきっかけを見つけることができる	6	7	9	12
「問題発見」のためには十分なアセスメントができるような聞き方が必要だと実感できる	9	11	14	17
個別支援の中で「あれっ」という気づきができる	11	12	13	14
個別の「あれっ」という気づきから、他の人も「そうだ」と気づける（共通項が見つけられる）	4	5	8	11
共通項から地域の課題の「見立て」ができる	4	5	8	9
市民が生活していく上での「ふつう」が何か把握できる	13	13	14	14
日常業務を通して「ふつう」の感覚が身についている	12	13	13	14
アセスメントする中で、その人自身や家族の生活全般の実態を把握できる	12	13	14	13

点数の伸びが小さい項目(事前の理解度が高い項目)
＝専門職として持っておくべき「ふつう」の感覚とアセスメントに関する項目

●問診とカンファレンスの場を共有して気づきを明確化する実践での感想



以前の私達
・発見した問題についてひとりでは確信が持てず、自信がない。
・「あれっ」と思うことが「ふつう」であるのか、対応が必要な事なのかの判断が難しい。
・判断に必要な情報をうまく聞き出せない。

今の私達
・複数人で場を共有し、カンファレンスで意見交換をしたため、気づきが明確化できた。
・「あれっ」と思うことに対して、専門職が対応する必要性の判断基準を近づけることができた。
・気づきを明確化するための「予測」に基づく情報の聞き方について実感できた。
・事例検討会とは違い、場の共有で共感しやすく視点の広がりを感じやすかった。

これまでの事業実施	場の共有で気づいたこと
担当者だけでの事業見直しであり、実施方法の検討に終始していた。	日常の事業においても「あれっ」という気づきを大切にする必要性があることを実感した。
事業を間違いなく遂行することだけを考え、事業にはつながりがあるということを意識できていなかった。	気づきが問題発見につながるとその対策のために次の事業へとつながり、事業間に関連性ができることがわかった。
自分の気づきから事業を展開したことがなく、PDCA で展開するということがよくわからなかった。	気づきを次につなげる、事業を作り出すという考え方を持てるようになった。

先輩保健師の振り返り
- 「業務を間違いなくこなす」ことが優先され、事業の目標を的確に認識できていない。
- 問題発見については視点が広がったが、次の事業展開を考えるイメージがまだ持てないという意見が上がった。若い保健師は自ら事業を組み立てる経験がほとんどなく、ひと通りの経験を共有する必要がある。
- 机上の学習ではなく、場の共有を通して感じ取る体験と言語化が、新任期だけでなく中堅期にも必要である。人材育成の体系的な展開が望ましい。

考察

保健活動の課題解決の実践的手法として必要なこと

事業をひとりで担当させず、複数人で検討できる体制とすること	次につなげるために、事業後に丁寧なカンファレンスを行って職員間の共感の場を作ること
個別対応についても内容を共有する場を作り、地域の課題を見つける機会とすること	「あれっ」という気づきを地域課題として「見立てる」「予測する」ことができるよう、日頃から意識してコミュニケーションをとること

今回の研究は「事業の在り方や事業間の関連性を考えるきっかけ」となりました。しかし、まだ自分自身の気づきに自信がなく、気づきを地域の課題として事業を展開することに不安があります。
現在は、問題発見から事業を展開する場の共有を行い、目的をしっかりと意識した事業の実施を体感しながら地域での活動の展開を進めているところです。人材育成方法の見直しも検討中です。